■奥井復太郎　　戦前に，日本における都市社会学と生活論の創始者となり，戦後は，学界を越えて幅広い活動を行った。
おくいふくたろう
八幡製鉄始・1897＝　　東京市下谷区車坂で，陶器店を営む奥井福吉の子に生まれる。

一族全てが商人の奥井家の本家はすでに地主に転換していたが，当主が若かったため，父福吉が後見人となり，一家で本郷の大名屋敷跡で"博士下宿"として有名だった{奥井館}に移住。

本郷にはエリート校として有名だった誠之小学校があったが，高等教育を受けた者のいない商家の子として，駒本小学校に入学。

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・1906＝ 9歳：

中学校くらいは出ておこうと，府立一中を受験するも失敗し，

韓国併合・・1910＝13歳：慶応義塾普通部に入学。級友に藤山愛一郎がいた。

明治天皇没・1912＝15歳：

21ヶ条要求・1915＝18歳：慶応義塾大学部予科に入学。父の病気のために大森に転居。絵や写真に興味をもつ一方，英語や数学に劣っていることを痛感，教会の日曜学校に通ったりするが，それ以上に思想的に未熟なことを自覚，
ロシア革命・1917＝20歳：葉山に家を建てる。**_慶応義塾大学部理財科に進学，高橋誠一郎教授のゼミナールで，学問に目覚め，**
本格政党内閣1918＝21歳：葉山に転居し以後ここから通い続ける。**_高橋教授の論文が掲載された{三田評論}が出版禁止となったことで，他のゼミ生同様，社会思想とくにバクーニン，クロポトキンなど無政府主義に興味をもち，**
大暴落・・・1920＝23歳：東京音楽学校に通う松田他野子と結婚。**_卒業論文「クロポトキンの"アナーキズム"研究」を高橋教授に提出，大学部理財科を卒業。学校に残りたいとの希望が叶えられて，経済学部助手に採用され，**
原敬首相暗殺1921＝24歳：
水平社結成・1922＝25歳：**_経済学部長堀江帰一に呼ばれ，経済学部嘱託となるとともに，都市経済論と社会改良計画を研究するように指示され，選ばれて，東京市長後藤新平の招きで来日したビアード博士のゼミナールに出席，**
関東大震災・1923＝26歳：**_美術批評家としてのラスキンの研究に没頭，都市研究の端緒をつかみかねているのを見かねた**
護憲三派圧勝1924＝27歳：**_大学当局より海外留学を命じられ，若い学者憧れの的だったドイツを目指し，妻を連れて横浜を出航，**
治安維持法・1925＝28歳：**_世界中の学者が集まるベルリン大学に通い，中世以来のドイツ都市から決定的な影響を受け，**
金融恐慌・・1927＝30歳：ロンドンに一時滞在，イギリスの産業革命期の都市生活や田園都市運動を研究，フランスに立ち寄って，
共産党事件・1928＝31歳：**_帰国するや，ドイツの都市研究を次々発表するが，シカゴ学派の存在を知ると，経済学部教授就任後，**
世界恐慌・・1929＝32歳：英語経済学の講義開始。***新たな方向示す「都市問題の一考察」を発表，以後，フィールドワークに専念，**
海軍軍縮条約1930＝33歳：都市経済論の講義を始める。
満州事変・・1931＝34歳：
五一五事件・1932＝35歳：独語経済学の講義を始める。
国際連盟脱退1933＝36歳：「社会改良主義」「国際社会政策」，
芥川直木賞始1935＝38歳：**_ゼミ学生の間で{大東京共同研究会}が形成され，三田社会調査を企画し，藤林敬三と共同で運営。**
二二六事件・1936＝39歳：英語経済学，独語経済学の講義を止め，**_論文「地域社会調査に関する若干の考察」を発表，**
日中戦争始・1937＝40歳：**_ほぼ独力で鎌倉町全域を調査するなど，孤高の都市研究を成し，**
この間，娘を次々キリスト教系の学校に入れ，妻子は受洗，四女玲子に至っては修道院入り。
第二次大戦始1939＝42歳：「社会政策論」「都市経済論」。慶大亜細亜研究所の所長加田哲二のアジア問題調査会設立にも協力するが，
大政翼賛会・1940＝43歳：「農業政策」。**_この時代に唯一国防に触れない純粋に学問的な「国土計画論」を刊行するなどしながら，調査の成果をまとめ，世界に類をみない画期的な「現代大都市論」を刊行して，**
日米開戦・・1941＝44歳：「都市経済論」。***経済学博士号を取得。　戦後本格化する日本の都市の社会学的研究を事実上確立，**
・・・・・・1942＝45歳：
創価学会検挙1943＝46歳：「集団住宅論～地域的集団社会論～」に挿入された図やスケッチには絵画への造詣が見られる。
年金+総武装 1944＝47歳：**_戦況の悪化で，都市経済論の講義も止め，地元葉山で部落会会長や町会議員を務め，自宅で野菜づくり。**
敗戦・・・・1945＝48歳：三田校舎に泊まり込むうち，校舎が罹災。
新憲法公布・1946＝49歳：獣医畜産専門学校校長代理となる。「都市農村問題の現在と将来」，
新憲法施行・1947＝50歳：「大都市人口の規制」，
極東裁判決・1948＝51歳：「コミュニティとしての都市」「都市計画」，
三大事件・・1949＝52歳：**_経済学部で都市問題の授業を再開。**
朝鮮戦争始・1950＝53歳：新設される一般教育課程の研究・視察のため，**_アメリカに派遣されると，その合間をぬって，シカゴ大学の大学院に留学中の矢崎武夫の案内で，シカゴ学派の都市社会学者ルイス=ワースを訪ねる。**
独立回復・・1951＝54歳：大学院経済学研究科で都市経営論を担当，大学院経社会学研究科で都市社会学を担当，
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝55歳：大学院社会学研究科委員長。この頃，20年後に脚光を浴びる"生活構造論"についての先駆的論文を発表，
TV放送始・・1953＝56歳：経済学部長。「近隣社会の組織化」「明治東京の性格」。***学際的な日本都市学会が結成され，会長に就任。**
8人もの子を抱え葉山から通い続けて，家は困窮していたが，**_リーダーシップを発揮し続けてきたため，**
国連加盟・・1956＝59歳：家族の大反対を押し切って**_ついに，慶應義塾塾長に就任，ゼミをもてないため，学生と接触できず，学外なら良いだろうと研究会{シビタス}を発足させるも，**
なべ底不況・1957＝60歳：ビジネススクールを設けるに当たり，ハーバード大学との提携のため再度渡米，シカゴ大学にディーンとドーナムを訪ねる。ワースは5年前に死去していた。「都市近代化の諸相」，
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝61歳：昭和天皇を創立百年記念式典に迎える。他，商学部を発足させるなど**_実務に追われ，手腕を発揮するが，**
美智子妃・・1959＝62歳：「都市建設とヒューマニズム」。「荷風と東京」を著し，のちに前田愛らが提唱する"都市と文学"を先駆。私立大学連盟文教政策審議会委員，文部省中央教育審議会委員，文化勲章選衡委員を務め，{産業研究所}を開設するなど，**_外の務めも多く，研究現場から離れていることに焦燥感，**
安保闘争・・1960＝63歳：**_ようやく慶応義塾長を退任し，経済学部教授に復帰するが，もはや，内外の仕事から離れられず，**
ｲﾀｲﾀｲ病始・1961＝64歳：宮中講書初めの儀で「現代大都市の経済・社会的性格」をご進講，
全国総合計画1962＝65歳：**_慶応義塾ビジネススクール校長。特殊法人国民生活研究所所長に就任すると，積極的に議論を展開。**
TV宇宙中継始1963＝66歳：「日本人の生活態度」。**_論文「再論"現代大都市論"」を発表して反省と苦闘を告白。学者と行政が一体となった日本都市学会あげての大規模な北九州市マスタープラン調査会長に就任。**
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝67歳：日本開発センター顧問。**_観光産業研究所所長。国土・地域の創造に関わる各種調査研究・計画策定・政策提言を行う_{地域開発研究所}を創立し，**
大学紛争始・1965＝68歳：社会開発懇談会委員。***建設省から財団法人として認可まもなく，伊豆下田で講演中に突然倒れ，膵臓炎のため，慶応病院で，没した。死の直前，四女の勧めでカトリックに改宗，洗礼名ヨゼフ。**

シリーズ世界の社会学・日本の社会学「奥井復太郎」，インターネットWikipedia，